

AudioBox GO

2x2 USBオーディオインターフェース
オーナーズマニュアル



目次

1 概要 — 3

- 1.1 Thank You! — 3
- 1.2 パッケージ内容 — 3
- 1.3 PreSonus製品間のシームレスな統合 — 5

2 接続とコントロール — 6

- 2.1 フロントパネルと接続 — 6
- 2.2 バックパネル接続 — 8
- 2.3 接続図 — 9

3 コンピューターに接続する — 10

- 3.1 Windowsへのインストール — 10
- 3.2 Universal Control (Windows) — 10
- 3.3 ファームウェアアップデート — 11
- 3.4 macOSへのインストール — 11
- 3.5 AudioBox GOを一般的なオーディオアプリケーションと共に使用する — 11

4 Studio One Primeガイド — 13

- 4.1 インストールとオーソライズ — 13
- 4.2 Studio One Primeを設定する — 14
- 4.3 オーディオデバイスを設定する — 14
- 4.4 MIDIデバイスを設定する — 15
- 4.5 スタートページで外部MIDIキーボードコントローラーを設定する — 15
- 4.6 スタートページで外部MIDIサウンドモジュールを設定する — 17
- 4.7 新規ソングを作成する — 18

5 音声の入出力を設定する — 19

- 5.1 音声の入出力を設定する — 19

6トラックを作成する — 21

- 6.1 トラックを作成する — 21
- 6.2 オーディオトラックを録音する — 22
- 6.3 バーチャルインストルメントとエフェクトを追加する — 22

7 技術情報 — 24

技術仕様 — 24

8 ディナーの時間です！ — 25

特別掲載：PreSonusの秘伝レシピ — 25

9 法に基づく表記 — 26

法に基づく表記 — 26

1 概要

1.1 Thank You!



PreSonus® AudioBox GOインターフェースをご購入いただきありがとうございました。PreSonus Audio Electronics, Inc. は、最適なパフォーマンスが長年にわたって保たれるよう、ハイグレードのコンポーネントを使用してAudioBox GOを設計しました。高ヘッドルーム、クラスAマイクプリアンプ、高解像度24-bit/96kHz変換などを搭載したAudioBox GOは、音楽演奏と制作のポータビリティ水準を新たに書き換えるものです。USB-CまたはUSB-A（2.0または3.0）対応のコンピューターまたはモバイルデバイス、マイクとケーブル、スピーカー、それに楽器さえあれば、作品の制作の準備は万全です。

AudioBox GOをコンピューターに接続する前に、まずこのマニュアルに目を通し、各機能、使用法、適切な接続手順についての理解を深めることをおすすめします。こうすることで、インストールやセットアップでの問題を未然に防ぐことができます。

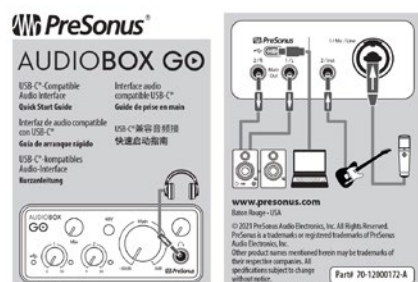
マニュアルの各所に記載されている「パワーユーザー向けヒント」では、AudioBox GOのエキスパートになるためのヒントを紹介しています。

1.2 パッケージ内容

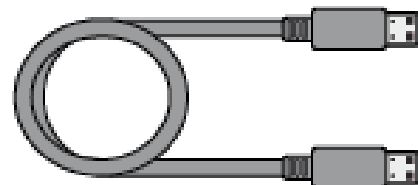
AudioBox GOパッケージには次が同梱されています。



AudioBox GO 24-bit/96kHzオーディオインターフェース



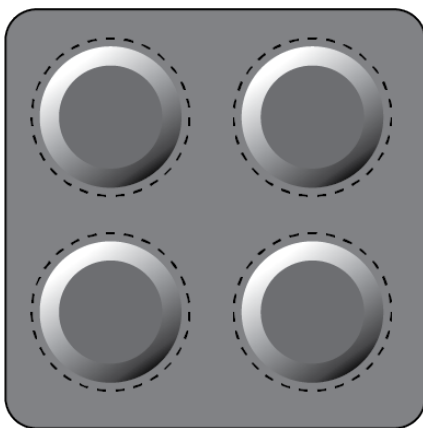
クイックスタートガイド（英文）
ハードウェア機能についての便利なリファレンスガイドとして使用でき、インターフェースの操作に慣れることができます。



1m USB-C-USB-Aケーブル
このケーブルを使用してAudioBox GOをコンピューターのUSBポートまたは電源付きUSBハブに接続します。



PreSonus安全衛生コンプライアンスガイド



ゴム足

パワーユーザー向けヒント：PreSonus AudioBox GO用のソフトウェアおよびドライバーはすべて、MyPreSonusユーザーアカウントからダウンロードが可能です。my.presonus.comを開いてAudioBox GOを登録すれば、ダウンロードとライセンスを手に入れます。

1.3 PreSonus製品間のシームレスな統合

PreSonus製品をご選択いただきありがとうございました。ソリューションを提供する企業として、PreSonusでは、シグナルチェーンの最初から最後まで最高の体験をカスタマー（お客様）に提供することが重要であると考えています。この目標を実現するためにも、PreSonusでは製品の全デザイン段階を通してシームレスな統合を優先させてきました。こうして、煩わしい設定の必要なく、そのままの状態ですぐに製品間でコミュニケーション可能なシステムが誕生したのです。

詳しくは、www.presonus.comをご参照ください。



2 接続とコントロール

2.1 フロントパネルコントロールと接続



ゲインコントロール



これらのツマミは50dBの可変ゲインを提供します（マイクは0～+50dB、ライン/インストゥルメントは-15～35dB）。

クリッピングインジケータ：入力信号が-0.5dBFSに達すると、ゲインコントロール右の小さな赤いランプが点灯します。このレベルになると、信号によりアナログ/デジタルコンバーターに過重な負荷がかかり、クリッピングの兆候を示し始めます。ゲインコントロールを使用して、信号をこのレベル未満に抑えます。

48Vファンタム電源



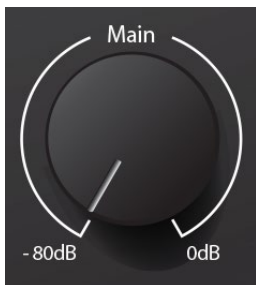
AudioBox GOは、マイク入力に48Vファンタム電源を搭載しています。[48V] ボタンを押すとマイク入力に対するファンタム電源のオンとオフが切り替わります。ファンタム電源がマイクプリアンプで使用可能な状態の場合、ボタンが青く点灯します。

電源インジケータ



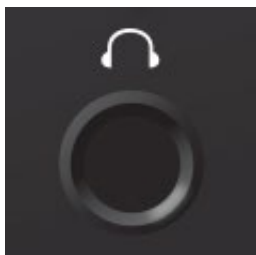
このランプは、AudioBox GOの電源が入っているかどうかを示します。

メインボリューム



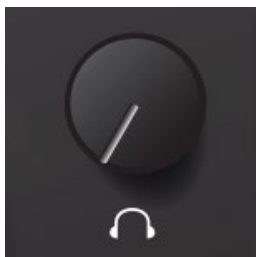
【Main】 ノブでは、AudioBox GO背面のメイン左/右出力のレベルを-80dBから0dBの範囲でコントロールします。このコントロールは減衰のみをもたらします。

ヘッドフォン出力



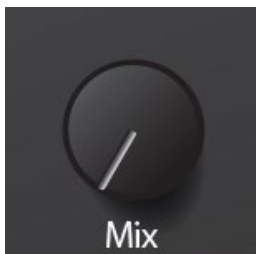
ヘッドフォン出力は、メインの左/右出力と同じサウンドを再生します。

ヘッドフォンレベル

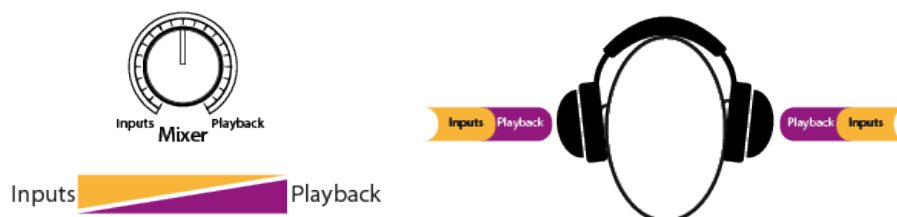


このノブは、ヘッドフォン出力のレベルをコントロールします。

ミキサー



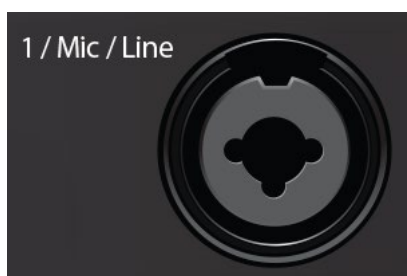
【Mixer】 ノブでは、入力信号をコンピューターからの再生ストリームに混合させ、入力信号をレーテンシー（遅延）なしでモニターすることができます。ノブが12時の方向にある場合、入力信号と再生ストリームは均等にバランスされています。下図のとおり、ノブを左へ回すと再生ストリームに比べて入力信号のレベルが上がり、右へ回すと入力信号に比べて再生ストリームのレベルが上がります。



2.2 バックパネル接続



マイク/ラインコンボ入力



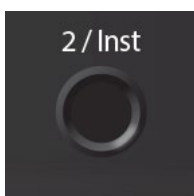
AudioBox GOインターフェースには、XLRマイクとラインレベルのソースの両方に対応するコンボジャックが装備されています。この便利なコネクタには、1/4インチまたはXLRコネクタを接続できます。

マイクロフォン：AudioBox Goのコンボジャックには、バスパワーに最適化された高品位XMAX-Lソリッドステートマイクプリアンプが搭載されており、あらゆる種類のマイクに対応しています。コンデンサーマイクを使用する場合、+48V電源スイッチを操作する必要があります。

注：他のオーディオ入力機器と同じように、マイクやインストゥルメントの接続時、またはファンタム電源のオン/オフ時には、オーディオ出力に瞬間的なピークが生じます。そのため、接続、取り外し、ファンタム電源オン/オフの際には、必ずゲイントリムを最小にしてください。これにより、オーディオ機器の耐用年数を延ばすことができます。

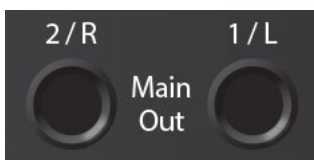
ラインレベルソース：コンボジャックは、シンセサイザー、シグナルプロセッサ、ドラムマシンなどのラインレベル機器の使用にも対応しています。

インストゥルメント入力



チャンネル2の1/4インチコネクタはギターやベースなどのパッシブ楽器に使用できます。

メイン出力



AudioBox GOのメイン出力です。メイン出力の出力レベルは、ユニット前面の [Main] レベルコントロールでコントロールします。プレイバックストリーム1と2はこれらの出力にルーティングされます。

USB-Cポート



このポートを使用して、AudioBox GOをご使用のコンピューターに接続します。AudioBox GOはUSB-Cを使用して接続しますが、USB 2.0および3.0接続にも完全互換しています。ご使用のコンピューターがUSB-C接続ではなくUSB 2.0または3.0接続に対応している場合、AudioBox GOに付属のUSB-C to Aケーブルを使用してください。

注：AudioBox GOはUSB 2.0およびUSB 3.0のスピード接続に下位互換しています。USB 1.1には対応していません。

2.3 接続図



3 コンピューターに接続する

AudioBox GOをコンピューターに接続する前に、www.presonus.comをご覧ください、最新のシステム要件についてご確認ください。

注：レコーディングシステム全体のパフォーマンスは、コンピューターのプロセッサ処理能力、RAM容量、ハードディスクの性能/容量/処理速度に大きく依存します。プロセッサの処理能力とRAM容量が上がると、信号のレーテンシー（遅延）が低下し、全体的なパフォーマンスが向上します。

macOSおよびWindows用のUniversal Controlインストーラーは、MyPreSonusユーザーアカウントから利用可能です。WindowsのインストーラーにはWindows ASIOドライバーも含まれています。macOSではドライバーをインストールする必要はありません。まずmy.presonus.comでユーザーアカウントを作成するかユーザーアカウントにログインし、AudioBox GOを登録します。登録が完了すると、Studio One PrimeとStudio Magicバンドルを含む全てのソフトウェアダウンロードがMyPreSonusユーザーアカウントで入手可能となります。

3.1 Windowsへのインストール

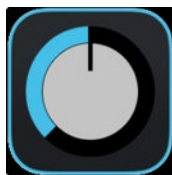
MyPreSonusアカウントからUniversal Controlインストーラーをダウンロードします。AudioBox GOはまだ接続しない状態にします。このアプリケーションは、ASIOおよびWDMドライバーおよびUniversal Controlをインストールします。インストーラーを起動し、表示されるメッセージを注意深く読み、インストールを進めてください。

インストールが完了したらAudioBox GOを接続してください。

パワーユーザー向けヒント：インストールの問題を防ぐため、実行中のアンチウィルスプログラムを一時的に無効にする。またはオフに切り替えることをおすすめします。

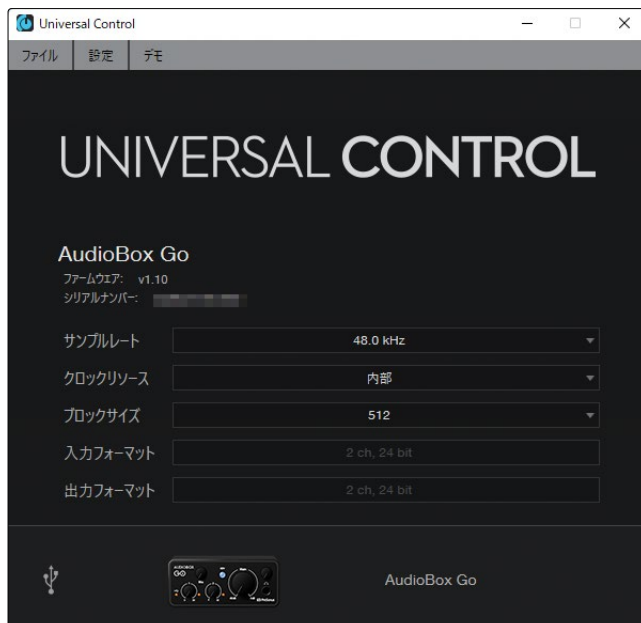
3.2 Universal Control (Windows)

Universal Controlは、PreSonusインターフェース全製品に対するパワフルなハードウェア管理アプリケーションです。ご使用のコンピューターまたはコンピューターのネットワークに接続されているPreSonusインターフェース製品を確認できます。



Universal Controlを起動すると、起動ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、すべてのASIOドライバー設定を管理できます。

サンプルレート：サンプルレートを変更します。



44.1、48、88.2、または96kHzに設定できます。サンプルレートが高くなるとレコーディングの忠実度が高くなりますが、同時にファイルサイズとオーディオ処理に必要なシステムリソースの量も上がります。

ブロックサイズ：バッファーサイズを設定します。

このメニューで、バッファーサイズを設定できます。バッファーサイズを下げるとレーテンシーが低下しますが、コンピューターへのパフォーマンス負荷も上昇します。一般的に、バッファーサイズはご使用のシステムが問題なく対応できる最も低い値に設定するとよいでしょう。オーディオパスにポップ、クリック、歪みが聞こえ始めたら、バッファーサイズを上げてみてください。

3.3 ファームウェアアップデート

Universal Controlをインストール後、AudioBox GOを接続すると、AudioBox GOのファームウェアをアップデートするよう促すメッセージが表示されることがあります。ファームウェアアップデートを実行するには、緑色の「ファームウェアを更新」ボタンをクリックするだけです。

ファームウェアのアップデート中はAudioBox GOを取り外さないで下さい。ファームウェアのアップデートが完了すれば、AudioBox GOの準備は完了です。

3.4 macOSへのインストール

AudioBox GOは、macOSではCore Audioクラスコンプライアントデバイスです。ドライバーのインストールは必要ありません。AudioBox GOを使用する際のUniversal Controlのインストールは任意ですが、常に最新のファームウェアを入手するためにもインストールしておくことをお勧めします。

3.5 AudioBox GOを一般的なオーディオアプリケーションと共に使用する

Studio One Prime用の詳細な設定手順および機能に関するチュートリアルは、本マニュアルのセクション4にあります。ただし、AudioBox GOは、Core AudioまたはASIOに対応したあらゆるオーディオレコーディングアプリケーションで使用できます。AudioBox GOドライバーをご使用のソフトウェアのオーディオデバイスドライバーとして選択する方法について詳しくは、オーディオアプリケーションに付属の説明書を参照ください。

一般的なオーディオアプリケーションに対するドライバー設定手順は次のとおりです。

Steinberg Cubase 10以降

- Cubaseを起動します。
- 新規プロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを開きます。
- 「スタジオ」 > 「スタジオ設定」を開きます。
- 左の「デバイス」列で「オーディオシステム」を選択します。
- 「オーディオシステム」下のドロップダウンメニュー「ASIOドライバー」をクリックします。
- 「AudioBox ASIOドライバー」を選択します。
- 左の「デバイス」列で「オーディオシステム」の「AudioBox ASIOドライバー」をクリックします。
- 入力ポートと出力ポートが正しく有効化され、表示されていることを確認します。

Ableton Live 10以降

- Ableton Liveを起動します。
- 「オプション」 > 「環境設定」 > 「Audio」を選択します。
- 「ドライバタイプ」を選択します。「ASIO」 > 「オーディオデバイス」 > 「ASIO AudioBox GO」を選択します（Macユーザーは「Core Audio」を選択する必要があります）。
- 「オーディオ入力デバイス」に「AudioBox GO」を選択します。
- 「オーディオ出力デバイス」に「AudioBox GO」を選択します。
- これで、Liveで作成した各トラックに対してAudioBox GOの入力と出力を選択することができます。

Apple Logic Pro X以降

- Logic Pro/Expressを起動します。
- 「Logic」 > 「環境設定」 > 「オーディオ」を選択します。
- 「デバイス」タブをクリックします。
- 「Core Audio」タブの「有効」にチェックマークを入れます。
- デバイスメニューからご使用のAudioBox GOを選択します。
- Logicを再起動するようメッセージが表示されます。「再起動」をクリックします。
- AudioBox GOには、ワークフローを高速化できるカスタムI/Oラベル機能が付いています。このラベルをLogicで使用できるようにするには、「オプション」 > 「オーディオ」 > 「I/Oラベル」を選択します。
- ポップアップウィンドウの2番目の列に「ドライバにより提供」と表示されます。該当するAudioBox GOのラベルを有効にします。完了したら、ウィンドウを閉じます。
- これでAudioBox GOが使用できる状態になりました。

Avid Pro Tools 2018以降

- Pro Toolsを起動します。
- [設定] > [プレイバックエンジン] を開き、ウィンドウ最上部のメニューから [AudioBox GO] を選択します。[OK] をクリックします。

Cakewalk by Bandlab

- Cakewalkを起動します。
- メニューを開き、[編集] > [環境設定] を選択します。
- [オーディオ] > [再生と録音] を選択します。
- [ドライバモード] を [ASIO] に設定します。
- 必要に応じてCakewalkを再起動します。
- [編集] > [環境設定] > [オーディオ] > [デバイス] タブに戻ります。
- AudioBox GOデバイスのみの入出力ドライバーをすべて選択します。
- Cakewalkはステレオペアルーティングを使用するため、[AudioBox ASIO Driver Input 1] と [AudioBox ASIO Driver Main Out Left] のみがオプションとして表示されます。
- [オーディオ] タブ下の [ドライバ設定] に移動します。
- [再生タイミングマスタ] に [ABoxGo ASIO Output 1|2] を選択します。
- [録音タイミングマスタ] に [ABoxGo ASIO Input 1|2] を選択します。

4 Studio One Primeクイックスタートガイド



Studio One Primeは、優れたパフォーマンスのキャプチャとミックスに必要なすべてのツールを提供します。

4.1 インストールとオーソライズ

ドライバーをインストールし、ご使用のオーディオインターフェースをコンピューターに接続したら、付属のPreSonus Studio One Prime音楽制作ソフトウェアを使用して音楽のレコーディング、ミキシング、制作が行えます。Studio One Primeをインストールするには、MyPreSonusアカウントにログインしてインターフェースを登録します。Studio One Primeのプロダクトキーは、ハードウェア登録によりMyPreSonusアカウントに自動的に登録されます。

Studio One Primeインストーラーをダウンロードして実行する



Studio One Primeをインストールするには、Studio One PrimeインストーラーをMyPreSonusアカウントから使用するコンピューターにダウンロードします。

- **Windows** : Studio One Primeインストーラーを起動し、画面上の指示に従います。
- **Mac** : Studio One Primeアプリケーションをハードディスクの [アプリケーション] フォルダーにドラッグします。

Studio Oneをオーソライズする

Studio Oneをご使用のコンピューター上で初めて起動する場合、MyPreSonusアカウントと通信して登録を確認します。シームレスなオーソライズ処理を行うためにも、アプリケーションを使用する予定のコンピューターにインストーラーをダウンロードすること、また初めてアプリケーションを起動する際はコンピューターがインターネットに接続されていることを確認してください。

パワーユーザー向けヒント：My.PreSonusユーザーアカウント情報を入力するよう促すメッセージが表示されることがあります。[認証情報を保存]をクリックすると、PreSonusMarketplaceから購入したコンテンツにアクセスできるようになります。

Studio One Prime用バンドルコンテンツをインストールする

Studio One Primeには、豊富なデモとチュートリアル、インストゥルメント、ループ、サンプルが付属しています。Studio One Primeバンドルには、音楽制作を始めるのに必要なすべてが含まれています。



Studio One Primeを初めて起動する場合、付属コンテンツのインストールを促すメッセージが表示されます。追加したいコンテンツを選択して [インストール] をクリックします。MyPreSonusユーザーアカウントからコンテンツのダウンロードとインストールが自動的に開始されます。

パワーユーザー向けヒント：選択可能なコンテンツの一部のみを選択するには、[パッケージを表示]をクリックします。ここで、コンテンツのインストールをカスタマイズできます。

4.2 Studio One Primeを設定する

Studio One PrimeはPreSonusインターフェースと連動するようデザインされており、独自の相互運用性とシンプルなセットアップを提供します。Studio One Primeを起動すると、デフォルトではスタートページが開きます。このページには、ドキュメント管理やデバイス設定のコントロール、カスタマイズ可能なアーティストプロフィール、ニュースフィード、PreSonusによるデモとチュートリアルへのリンクが表示されています。ご使用のコンピューターがインターネットに接続されている場合、これらのリンクは、PreSonusウェブサイト に新しいチュートリアルが掲載されるたびに更新されます。

Studio One Primeの全機能に関する詳しい情報については、Studio Oneに収録されているリファレンスマニュアルをご参照ください。このチュートリアルでは、設定とレコーディングをスムーズに開始するのに必要なStudio One Primeの基本のみをカバーしています。

4.3 オーディオデバイスを設定する

[スタート] ページの中央には、[設定] エリアがあります。Studio One Primeは、システムを自動スキャンして使用可能なドライバを検索し、ドライバを選択します。デフォルトでは、使用可能であればPreSonusドライバが選択されます。



Studio One起動時にスタートページにご使用のデバイスが表示されない場合、設定エリアの「オーディオデバイスを設定」をクリックし、「オプション」ウィンドウを開きます。



「オプション」ウィンドウで、「オーディオ設定」タブをクリックしてプルダウンメニューからデバイスのドライバーを選択します。

4.4 MIDIデバイスを設定する

Studio One Primeの外部デバイスウィンドウでは、ご使用のMIDIキーボードコントローラー、サウンドモジュール、コントロールサーフェスを設定できます。このセクションでは、MIDIキーボードコントローラーとサウンドモジュールの設定について説明します。他のMIDIデバイスの設定方法について詳しくは、Studio One内のリファレンスマニュアルをご参照ください。

サードパーティ製MIDIインターフェースまたはUSB MIDIコントローラーキーボードをご使用の場合、このセクションを進める前に、これらのデバイスに対する必要なドライバーをインストールする必要があります。インストール手順について詳しくは、ご使用のMIDIハードウェアに付属の取扱説明書をご参照ください。

4.5 スタートページで外部MIDIキーボードコントローラーを設定する

MIDIキーボードコントローラーはハードウェア機器で、他のMIDI機器、バーチャルインストゥルメント、ソフトウェアパラメーターの再生とコントロールに使用されます。Studio One Primeでは、これらのデバイスを「キーボード」と呼び、使用前に設定を行う必要があります。場合によっては、ご使用のMIDIコントローラーがトーンジェネレーターとしても使用されていることがあります。Studio One Primeは、コントローラー機能とトーンジェネレーター機能を、MIDIキーボードコントローラーとサウンドモジュールの2つの別個のデバイスとして認識します。MIDIコントロール（キーボード、ノブ、フェーダーなど）は、「キーボード」として設定されます。サウンドモジュールは、「インストゥルメント」として設定されます。

外部MIDIデバイスは、スタートページの設定エリアで設定できます。レコーディング用に新規ソングを設定する前に、外部デバイスを設定します。

外部MIDIコントローラーのMIDIアウトを、PreSonusオーディオインターフェース（ある場合）またはその他のMIDIインターフェースのMIDIインに接続します。USB MIDIコントローラーをご使用の場合、コンピューターに接続して電源を入れます。



「スタート」ページの「設定」エリアの「外部デバイスを設定」をクリックして「外部デバイス」ウィンドウを起動します。



「追加」ボタンをクリックします。「デバイスを追加」ウィンドウが開きます。



左側のメニューで、メーカーとモデルのリストからご使用のMIDIコントローラーを選択します。ご使用のMIDIコントローラーがリストに表示されない場合、「新規キーボード」を選択します。ここで、製造元やデバイス名を入力し、キーボードの名前をカスタマイズできます。

- このキーボードとの通信に使用するMIDIチャンネルを指定する必要があります。ほとんどの場合、「すべて」のMIDIチャンネルを選択する必要があります。どのMIDIチャンネルを選択するべきか分からない場合、16すべてを選択します。
- Studio Oneでは、特定のコントロール機能を除去できます。アフタータッチ、ピッチベンド、プログラムチェンジ、すべてのCCメッセージをStudio Oneに無視させたい場合、これらのメッセージのいずれかまたはすべてのフィルタリングを有効にします。
- 「受信元」のドロップダウンメニューで、Studio One PrimeがMIDIデータを受信するMIDIインターフェース入力（ご使用のキーボードが接続されているMIDIポート）を選択します。
- 外部シンセサイザーとバーチャルインストゥルメントのコントロールに使用するキーボードが他にない場合、「デフォルトのインストゥルメント入力」のチェックボックスにチェックマークを入れます。これで、Studio One PrimeのすべてのMIDIデバイスにキーボードが自動アサインされます。
- 「OK」をクリックします。これで完了です。

パワーユーザー向けヒント：「送信先」のドロップダウンメニューで、**Studio One**からキーボードに**MIDIデータを送信するMIDIインターフェース出力**を選択します。キーボードコントローラーが**Studio One**から**MIDIデータを受信する必要がない場合、これは選択しなくてもかまいません。**

接続したいサウンドモジュールがある場合、外部デバイスウィンドウを開いたまま、このセクションの次のパートに進みます。それ以外の場合、このウィンドウを閉じ、次のセクションに進みます。

4.6 スタートページで外部MIDIサウンドモジュールを設定する

MIDIインストゥルメントコントローラー（キーボード、MIDIギターなど）は、音楽情報をMIDIデータ形式でトーンモジュールやバーチャルインストゥルメントに送信し、サウンドモジュールやバーチャルインストゥルメントを演奏することができます。トーンモジュールには、スタンドアロンのサウンドデバイスや、キーボードシンセサイザーのようにMIDIインストゥルメントに統合されたものがあります。Studio One Primeでは、すべてのトーンジェネレーターを「インストゥルメント」と呼びます。MIDIキーボードコントローラーの設定が完了したら、サウンドモジュールを設定します。

外部サウンドモジュールのMIDIインがMIDIインターフェースのMIDIアウトに接続されているかどうか確認します。



「外部デバイス」ウィンドウで、「追加」ボタンをクリックします。



左側のメニューでご使用のデバイスを選択します。ご使用のデバイスがリストにない場合、「新規インストゥルメント」を選択します。ここで、製造元やデバイス名を入力し、キーボードの名前をカスタマイズできます。

- このサウンドモジュールとの通信に使用するMIDIチャンネルを指定します。ほとんどの場合、[すべて]のMIDIチャンネルを選択する必要があります。どのMIDIチャンネルを選択するべきか分からない場合、16すべてを選択します。
- 「送信先」メニューで、Studio One PrimeからサウンドモジュールにMIDIデータを送信するMIDIインターフェース出力を選択します。[OK] をクリックして「外部デバイス」ウィンドウを閉じます。これで、Studio One Primeでレコーディングする準備は完了しました。

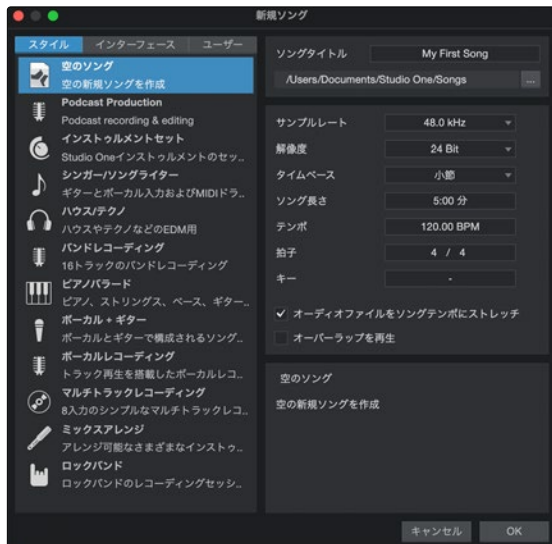
以降のクイックスタートガイドでは、ソングの設定方法を説明し、Studio One Prime環境を紹介しながら一般的なワークフローのアドバイスを提供します。

4.7 新規ソングを作成する

オーディオデバイスとMIDIデバイスの設定が完了したら、新規ソングを作成しましょう。まず、デフォルトのオーディオI/Oを設定します。



スタートページで「新規ソングを作成」を選択します

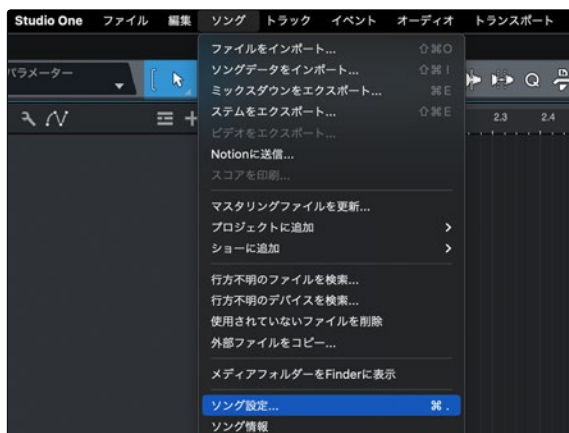


「新規ソング」ウィンドウで、ソングに名前を付け、保存先となるディレクトリを選択します。左にはテンプレートのリストが表示されます。これらのテンプレートでは、さまざまなデバイスや録音シチュエーションをすばやく設定できます。このセクションでは、空のセッションからソングの作成について説明します。

パワーユーザー向けヒント：ループをソングにインポートするつमりの場合、**「オーディオファイルをソングテンポにストレッチ」**オプションが選択されていることを確認します。これで、ループが自動的に正しいテンポでインポートされるようになります。

5 音声の入出力を設定する

5.1 音声の入出力を設定する



[Song] > [Song Settings] をクリックして、サンプルレートと解像度、オーディオI/Oを設定します。



[オーディオI/O設定] タブをクリックします。



[入力] タブで、AudioBox GO上で使用可能にしたい一部またはすべての入力を有効にできます。AudioBox GOの場合は入力それぞれにモノ入力を作成することをお勧めします。

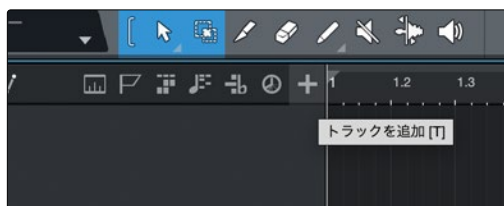


「出力」タブをクリックして、AudioBox GOの一部またはすべての出力を有効にします。右下隅には「試聴」選択メニューがあります。ここでは、オーディオファイルをStudio One Primeにインポートする前に試聴する出力を選択できます。一般的に、メイン出力バスを使用します。

パワーユーザー向けヒント：Studio Oneを起動するたびにこのI/O設定を使用したい場合、[デフォルトを作成]ボタンをクリックします。

6 オーディオトラックとインストゥルメントトラックを作成する

6.1 トラックを作成する



アレンジウィンドウの左上隅にいくつかのボタンがあります。一番右が「トラックを追加」ボタンです。このボタンをクリックすると「トラックを追加」ウィンドウが開きます。



「トラックを追加」ウィンドウでは、トラック名と色をカスタマイズしたり、エフェクトのプリセットトラックを追加したり、オーディオトラックの入力と出力の物理ソースを設定したりできます。また、作成したいトラックの数と種類を選択できます。

- **オーディオ**：オーディオファイルの録音と再生にはこのトラックタイプを使用します。
- **インストゥルメント**：外部MIDIデバイスまたはバーチャルインストゥルメントプラグインをコントロールするためのMIDIデータの録音と再生にはこのトラックを使用します。
- **オートメーション**：このトラックタイプでは、セッションに対するオートメーションパラメーターコントロールを作成できます。
- **フォルダー**：このトラックは、セッションを管理したり、複数のトラックを同時にすばやく編集したりするのに便利です。

パワーユーザー向けヒント：使用可能な入力それぞれにオーディオトラックを追加したい場合、**「トラック」>「すべてのインプットのトラックを追加」**を選択します。

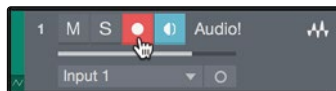


注：インストゥルメントトラックはオーディオトラックとほぼ同じです。インストゥルメントトラックの入力ソースリストは使用可能な外部MIDIデバイスおよびソングに追加されているバーチャルインストゥルメントをリスト表示します。

6.2 オーディオトラックを録音する



録音を開始するには、[トラックを追加] ウィンドウからオーディオトラックを作成し、この入力をインターフェースの入力1に設定し、マイクを同じ入力に接続します。



トラックの録音準備ボタンを選択します。ご使用のオーディオインターフェースの入力1のレベルを上げ、マイクに向かって声を出します。Studio One Primeの入力メーターで入力への反応を確認します。ゲインを調整し、クリッピング（歪み）が出ない程度に入力レベルをできるだけ最大値に近づけます。

これで、レコーディングする準備は完了しました。手順について詳しくは、[ヘルプ] > [Studio Oneリファレンスマニュアル] をご参照ください。

6.3 バーチャルインストゥルメントとエフェクトを追加する

プラグインとインストゥルメントは、ブラウザーからドラッグ&ドロップしてソングに追加できます。エフェクトまたはエフェクトグループをあるチャンネルから別のチャンネルにドラッグしたり、カスタマイズしたエフェクトチェーンにドラッグして、メニューをスクロールすることなく、お気に入りのバーチャルインストゥルメントプリセットを簡単にロードすることもできます。

ブラウザーを開く



アレンジウィンドウの右下隅には、3つのボタンがあります。

- [編集] ボタンは、オーディオエディターとMIDIエディターを開閉します。
- [ミックス] ボタンは、ミキサーウィンドウを開閉します。
- [ブラウズ] ボタンは、ブラウザーを開閉します。ブラウザーには、使用可能なすべてのバーチャルインストゥルメント、プラグインエフェクト、オーディオファイル、MIDIファイル、現在のセッションにロードされているオーディオファイルのプールが表示されます。

バーチャルインストゥルメントをドラッグ&ドロップする

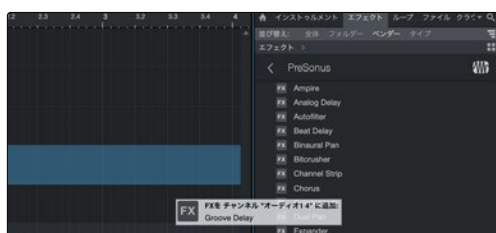
6 オーディオトラックとインストゥルメントトラックを作成する

6.3 バーチャルインストゥルメントとエフェクトを追加する



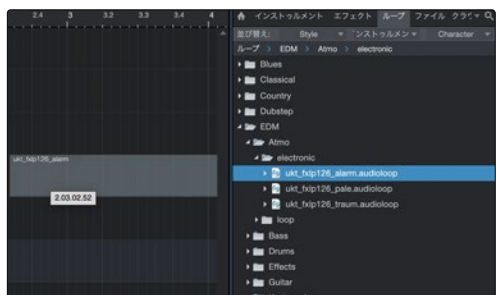
バーチャルインストゥルメントをセッションに追加するには、ブラウザーを開いて「インストゥルメント」ボタンをクリックします。インストゥルメントブラウザーでインストゥルメントまたはそのパッチのいずれかを選択し、アレンジビューにドラッグします。Studio One Primeにより新規トラックが自動作成され、このインストゥルメントが入力としてロードされます。

エフェクトをドラッグ&ドロップする



プラグインエフェクトをトラックに追加するには、ブラウザーの「エフェクト」ボタンをクリックし、エフェクトブラウザー内でプラグインまたはそのプリセットのいずれかを選択します。エフェクトを追加したいトラックに選択対象をドラッグ&ドロップします。

オーディオファイルとMIDIファイルをドラッグ&ドロップする



オーディオファイルとMIDIファイルは、ファイルブラウザーからアレンジビューにドラッグすることで、すばやく選択、試聴、ソングにインポートできます。ファイルをアレンジビューの空のスペースにドラッグすると、新規トラックが作成され、ファイルはトラック内のドラッグ位置に置かれます。ファイルを既存のトラックにドラッグすると、ファイルは新規パートとしてそのトラックに置かれます。

7 技術情報

技術仕様

サンプルレート	44.1、48、88.2、96kHz
コンバーター解像度	24 bit
ADCコンバーターダイナミックレンジ	90 dB、48 kHz
DACコンバーターダイナミックレンジ	102 dB、48 kHz

マイクロフォンプリアンプ

タイプ	XLRメス（コンボ端子）、バランス
最大入力レベル（ユニティーゲイン、1 kHz @ 0.5% THD+N）	+10 dBu（±0.5 dBu、最小ゲイン）
ゲインコントロール範囲	50 dB
周波数特性	20 Hz - 20 kHz（±0.3 dBu、ユニティーゲイン）
THD+N（1 kHz @ +4 dBu出力、ユニティーゲイン）	0.004%（1 kHz、-1 dBFS、最小ゲイン）
入力インピーダンス	1.4 k Ω
ファンタム電源	+48V（+/-2VDC）

ライン入力

タイプ	1/4" TSメス（コンボ端子）、アンバランス
最大レベル	+19 dB
ゲインコントロール範囲	50 dB（-10 dB～+30 dB）
入力インピーダンス	750 K Ω

インストゥルメント入力

タイプ	1/4" TSメス（入力2）、アンバランス
最大レベル	+13 dB
ゲインコントロール範囲	50 dB（-10 dB～+30 dB）

ライン出力

タイプ	1/4" TRSインピーダンスバランス
周波数特性	20 Hz～20 kHz、+/-0.2 dB
出力インピーダンス	51 Ω
THD+N（1 kHz、20 kHz BW、A特性）	< 0.002%

ヘッドフォン出力

タイプ	1/4" TRSメス、ステレオ
最大出力レベル	30 mW/チャンネル @ 60 Ω
周波数特性	20 Hz～20 kHz、+/-0.5 dB
THD+N（1 kHz、最大ゲイン、20 kHz BW、A特性）	< 0.08%
S/N比（1 kHz、最大ゲイン、0 kHz BW、A特性）	90 dB

デジタルオーディオ

接続タイプ	USB-C端子（USB 2.0動作）
ADC ダイナミックレンジ（A特性）	90 dB、48 kHz
DAC ダイナミックレンジ（A特性）	102 dB、48 kHz
解像度	24 bits
対応サンプルレート	44.1、48、88.2、96kHz

8 ディナーの時間です！

特別掲載：PreSonusの秘伝レシピ

レッドビーンズ&ライス



材料：

- レッドキドニービーンズ（赤インゲン豆、乾燥）450グラム
- 玉ねぎ大1個（さいの目切り）
- セロリ3本（さいの目切り）
- 青ピーマン大1個（さいの目切り）
- 野菜ブイヨン6～8カップ
- トニー・チャチャレのシーズニング（無塩）大さじ1
- パセリ（生）1/2束
- 粗塩大さじ2
- オリーブ油大さじ2
- ハムホック（豚の脚）の燻製（お好みで）

作り方：

- キドニービーンズを冷水で洗う。
- 圧力鍋にオリーブ油を入れて中火にかける。玉ねぎ、セロリ、ピーマン、キドニービーンズ、ハムホック（お好みで）を鍋に入れ、玉ねぎが透明になるまで炒める。
- オールドベイシーズニング、パセリ、塩を入れて混ぜる。
- キドニービーンズと野菜がすべて浸かる程度に野菜ブイヨンを加える。
- 圧力鍋を閉じ、強火にかけて最大圧力まで上げる。
- 最大圧力をキープできる程度に火力を下げる。40分煮込む。
- 火を止め、減圧するまで待つ（20～30分ほど）。
- ふたを取り、ポテトマッシャーでクリーム状になるまでつぶす。
- 塩とこしょうで味を整える。
- ライスの上にかけ、ホットソースとグリルしたアンドウイユソーセージ（お好みで）をのせる。

9 法に基づく表記

法に基づく表記

この文書のいかなる部分も、いかなる形式または手段によっても複製または転送することはできません。また、この文書は米国および国際著作権法によって保護されています。PreSonus社の書面による許可なく、本書を複製、配布することは禁じられています。

以下に示されていない限り、ここに含まれる商標、サービスマーク、およびロゴ（以下「マーク」）は、PreSonusにより所有または管理されているまたはPreSonusにライセンスされています。

©2021-2021 PreSonus Audio Electronics, Inc. All Rights Reserved. 無断複写・転載を禁じます。AudioBox USB、Capture、CoActual、EarMix、Eris、FaderPort、FireStudio、MixVerb、Notion、PreSonus、PreSonus AudioBox、QMix、RedLightDist、SampleOne、Sceptre、StudioLive、Temblor、Tricomp、WorxAudio、Wave LogoはPreSonus Audio Electronics, Inc.の登録商標です。Studio OneはPreSonus Software Ltd.の登録商標です。

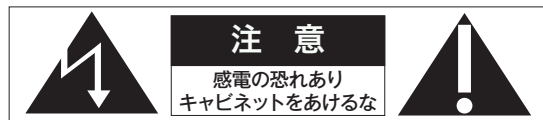
ASIOはSteinberg Media Technologies GmbHの商標およびソフトウェアです。USB Type-CおよびUSB-Cは、USB Implementers Forumの登録商標です。

Mac、macOS、iPadOSは米国およびその他の国におけるApple, Inc.の登録商標です。Windowsは米国およびその他の国におけるMicrosoft, Inc.の登録商標です。

本書に記載のその他の製品名および会社名は各社の商標または登録商標です。すべての仕様は予告なく変更する場合があります（PreSonusの秘伝レシピを除く）。

この度は PreSonus® 製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり正しくご使用ください。

●機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないで下さい。
この機器の内部には、お客様が交換できる部品はありませんので、安全のため修理は、お買い上げの PreSonus® 販売店に依頼してください。



重要な操作方法およびメンテナンス方法の記述が
製品に付属の説明書にあることを示します。



機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が
存在し、感電の危険がある事を警告しています。



警告

取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。この機器を使用する前に、以下の指示と取り扱い説明書をよく読んでください。

●設置・使用場所に関する注意

- ・湿度の高いところ及び、本機を雨等で濡らす可能性のある場所には、設置、使用はしないでください。火災、感電の原因となります。
- ・火気のある場所及び、湿度の高い場所、油飛びや湯気のあたる場所には、設置、使用をしないでください。火災、感電の原因となります。
- ・振動、不安定な場所への設置、使用は、落下や転倒等によるけがの原因となることがあります。

●使用上の注意

次のような場合は、直ちに電源を切って、電源コードをコンセントから外し、お買い上げの PreSonus® 販売店まで修理を依頼してください。

- ① 機器が（雨等）他）濡れたとき。
- ② 機器に異常や故障が生じたとき。
- ③ 電源コードやプラグが破損したとき。
- ④ 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき。
- ⑤ 機器が発煙したとき。

- ・電源に AC100V、又は専用の AC アダプターを必要とする機器は、AC100V の家庭用電源、又は専用の AC アダプター以外で使用しないでください。火災、感電の原因となります。
- ・電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを乗せたりしないでください。又、電源コードが傷んだり、傷つきますと、火災、感電の原因となります。
- ・電池を使用した機器内部には、電池以外お客様が修理、交換できる部品はありません。又、AC100V を使用する機器内部にはお客様が修理、交換できる部品はありません。
- ・この機器に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金等）や液体（水、ジュース等）を絶対に入れないでください。
- ・不快な程の音量で長時間使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になることも考えられます。万一、耳に異常を感じた場合は、専門の医師に相談してください。
- ・分解、改造等は、行わないでください。品質、安全等が、損なわれる恐れがあります。又、火災、感電の原因となることがあります。
- ・この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。
- ・電源はタコ足配線等の無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット、アンペア）を越えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。



注意

取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合及び、物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。

●使用上の注意

- ・清掃は乾いた布のみで行ってください。
- ・薬品、ほこり、高周波を発生する機器（テレビ、ラジオ等）のそばには設置、使用しないでください。

●電源・電池に関する注意

- ・電池を使用する際、保証期間内の指定の電池をご使用ください。又、電池は＋を確認して入れてください。
- ・長期間使用しない場合は、本体から電池を外してください。電池の液漏れにより内部が破損します。電池の液漏れによる故障については当社では保証致しかねます。
- ・使用済みの電池を火中に投げ込まないでください。
- ・長期間使用しない場合、又は使用時以外には電源コード及び、AC アダプターをコンセントから必ず抜いてください。
- ・電源コード、又は AC アダプターをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグ、又は AC アダプター本体を持って、抜いてください。
- ・濡れた手で本機や差し込みプラグに触れないでください。感電することがあります。
- ・電気用品安全法に基づく安全性確保のため、当製品に付属の「電源コードセット」を必ずご使用ください。この「電源コードセット」とは、電源（コード、ケーブル）の両端に差込接続機（プラグ、コネクター）が一体になったものです。製品に対し、着脱可能な構造となっています。

●移動させるときの注意

- ・電源コードを必ずコンセントから抜いてから移動してください。（差し込んだまま移動すると火災、感電の原因となることがあります）
- ・キャスト付き製品は、不安定な場所の設置や移動によって転倒する場合がありますので、安定しているか必ず確認してください。

●お子様がいらっしゃるご家庭で使用する場合の注意

- ・お子様の取り扱いやいたずらにご注意してください。必ず大人の方が監視／指導してください。

